

《鎌倉歴史文化交流館と扇ヶ谷巡り》

梅雨の最中ながら、晴れ間ものぞく1日を、鎌倉駅から扇ヶ谷方面に、大貫昭彦先生のご案内をいただき、有意義な散策を楽しみました。

＜実施日 令和元年7月2日（火）、参加者 23名でした＞



《鎌倉駅西口の、鎌倉市水道営業所の前で》

みんなで元気よく朝の挨拶、

講師の大貫先生から、今日の行程と見どころについてご説明があり、スタートです。



《扇ヶ谷・無量寺谷に向かう道は》

鎌倉駅西口からすぐのこの辺りは、閑静な路地があり、亀甲積み石垣に黒板塀の家がある、石塀小路とでもいう、雰囲気のある散策路でした。



《鎌倉歴史文化交流館》

真言宗泉涌寺派の無量寺がこの一帯を占めていたことから「無量寺ヶ谷」の名もあるところ。平成14年調査の折に、岩盤を穿った庭園遺構を発掘、瑞泉寺庭園（国史跡）より70年前のものと推定されるそうです。その後、美術館開設が計画されたが頓挫、平成29年5月に「鎌倉歴史文化交流館」として引き継がれ開館されたものです。



《館内で、学芸員の方の解説を聞く》

この建物は世界的に著名な建築家ノーマン・フォスター氏が手掛けた個人住宅を、鎌倉市が、のちに取得し、文化施設としてオープン。鎌倉で発掘された出土品をメインに、原始・古代から近現代に至る鎌倉の歴史を紹介しています。 中世の景観を彷彿とさせる庭園、高台からの海の眺望も見どころです。



《八坂神社にて》

式外社。当時あったはずなのに延喜式に記載のない神社。

社地東西 23 間、南北 11 間。今小路にあって、相馬師常の霊を祭る。

大貫先生の解説です。



《扇谷上杉管領屋敷跡の碑の前で》

英勝寺前の JR 横須賀線の踏切近くに、この碑が建てられています。「扇ヶ谷」という地名は、鎌倉時代後期ごろからあったものですが、海蔵寺から英勝寺付近の狭い範囲で、この地域の総称は「亀ヶ谷」だったが、室町時代に上杉定正がこの地に住み「扇谷殿」と呼ばれるようになったことから「亀ヶ谷」という名が廃れ、「扇ヶ谷」が一般的になったという。



《浄光明寺境内にて》

開基は、第6代執権 北条長時 のちに足利尊氏蟄居したところで、足利基氏、氏満の遺骨を埋葬しています。 鎌倉御所の菩提寺となった。



《十六夜日記と冷泉家訴訟事件について》

浄光明寺の秘仏を、鍵を開けていただき、特別拝観しました。

この浄光明寺には、歌人として有名な「藤原定家」の孫「為相」の墓（国指定史跡）があり、その「為相」の母が、有名な「十六夜日記」を書いた「阿仏尼」であることから、大貫先生から「十六夜日記」についてと、合わせて冷泉家の訴訟事件についての解説がありました。

暑い時期の8月、9月はお休みです。 次回の散策は 10月1日（火）です。

「鎌倉仏の寺を訪ねます」・・・来迎寺・特別拝観あり

（おわり）